

公衆衛生看護技術論

保健師コース必修 開講年次：4年次前期 科目区分：演習 単 位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：公衆衛生看護の基本的な概念と地域における看護職の機能と役割を理解し、地域で生活する個人や家族、特定集団、地域集団を対象に特徴的な健康課題をもつ事例について看護過程を展開しながら学ぶ。また、公衆衛生看護活動を実践していくために必要な基本的知識・技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生が自ら主体的に修得し、実践へつなげていく。

■**到達目標**：①公衆衛生看護の実践で用いる基本的な技術(保健指導、家庭訪問、乳幼児健診、健康相談・健康診査)を修得し、それらを用いる意義を説明することができる。
②生活の場における健康課題を導き出し、対象者(対象集団)の主体性や予防的な対処能力を育むための支援計画を立案できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎近藤 圭子・櫻井 繭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

	内容
第1・2回	コースガイダンス 家庭訪問
第3・4・5・6回	家庭訪問
第7・8・9回	乳幼児健診
第10・11・12回	健康相談・健康診査
第13・14回	家庭訪問事例展開 演習
第15回	事例検討会 まとめ

*単元の順序は、一部変更する可能性がある。

■**教科書**：「標準保健師講座2 地域看護技術」 医学書院

■**参考文献**：「最新保健学講座3、4、5、別巻1」メヂカルフレンド社

■**成績評価基準と方法**：定期試験、提出物および授業・演習への参加態度を総合的に評価する。評価基準は下記参照。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	60%以上を正解していること。	60
提出物	◎	◎	記述内容の適切性。 提出期限が守られていること。	30
授業・演習態度	○	○	積極的に講義・演習へ参加し、グループメンバーと協働できること。	10
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論I、公衆衛生看護援助論I、公衆衛生看護援助論II、健康教育指導法

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：各演習では、健康教育指導法や地域看護援助論I・IIで学んだ知識・看護技術を基盤にしてアセスメントし、具体的な支援計画を立案していきますので、公衆衛生看護学臨地実習と深く繋がる科目です。積極的な参加とともにグループメンバーとの良い協働を期待します。